

②重点目標	1 儀式・行事を含めて通常業務を着実に遂行する。 2 PTA活動を通して保護者に学校のことをよく理解してもらう。	前年度3月作成		
③現 状	1 分掌の枠を越えて協力してもらい、各儀式や行事の運営は円滑に行われている。 2 この3年間はコロナ禍にあったため、十分なPTA活動が行われていない。 3 保護者への連絡や資料送付は紙媒体を使って行われており、連絡が行き届かない面がある。			
④具体的な目標	1 各儀式や行事を、それぞれの趣旨に沿った意義深いものにする。 2 PTAに関連した会議や活動を精選し、保護者が参加しやすいものとする。 3 保護者メールシステムと紙媒体を併用して保護者への連絡が行き届くようにする。			
⑤目標達成のための方策	1 各儀式や行事をより充実させるために、前年度の反省を踏まえて計画を立案する。 2 PTA総会の日曜開催、森山登山での活動内容の改善、部活動後援会との合同理事会に替わるPTA役員会の開催などに取り組む。 3 既存のメールシステムに加えて新しい保護者連絡システム「すぐーる」を試験的に導入する。			
⑥具体的な取り組み状況	次のような取り組みを行った。 ・入学式、始業式、終業式等の運営 ・PTA・部活動後援会理事会および同総会の開催 ・同窓会三役会および同総会の開催 ・学校要覧、生徒名簿作成 ・奨学金関係業務の遂行 ・避難訓練の実施 ・PTA会報の発行 ・スクールバス関係の連絡調整		8月までの達成状況や評価	
⑦達成状況	各儀式・行事はほぼ予定どおり実施された。各種の通常業務も滞りなく遂行された。森山登山に関しては保護者も登山をすることができるように配慮した。また、第1回PTA・部活動後援会合同理事会の代わりに、学年PTAにあわせてPTA役員会を開催することができた。			
⑧自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;"><b>B</b></td> <td>(根拠) PTA総会を日曜日に開催したが、参加者は14名と、多くはなかった。また、森山登山のPTA補助活動に実際に参加した保護者は1名だけだったので、活動内容等について改善の余地があると思われる。</td> </tr> </table>	<b>B</b>		(根拠) PTA総会を日曜日に開催したが、参加者は14名と、多くはなかった。また、森山登山のPTA補助活動に実際に参加した保護者は1名だけだったので、活動内容等について改善の余地があると思われる。
<b>B</b>	(根拠) PTA総会を日曜日に開催したが、参加者は14名と、多くはなかった。また、森山登山のPTA補助活動に実際に参加した保護者は1名だけだったので、活動内容等について改善の余地があると思われる。			
自己評価に基づいた改善策	PTA総会当日に本校就職支援員による進路講話を設定するなどして、保護者をもっと意欲的に来校したいと思えるような工夫をする必要がある。	年度末までの達成状況や評価		
⑨具体的な取り組み状況	次のような取り組みを行った。 ・始業式、終業式、卒業式等の儀式運営 ・避難訓練、防災講話の実施 ・フォトニュース、PTA会報、同窓会報の発行 ・同窓会との連携 ・奨学金等の事務運営 ・スクールバス関係の連絡調整 ・生徒手帳の改訂 ・五城目町広報への寄稿 ・保護者連絡システム「すぐーる」の導入			
⑩達成状況	新型コロナウイルスの影響から抜け出る過渡期にあって、コロナ禍で実施しなくても支障のなかったものについては今年度から取りやめることにした。PTA・部活動後援会合同理事会に替わるPTA役員会の開催、表彰式への来賓招待の取りやめなどが、そのような取り組みである。			
⑪自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;"><b>B</b></td> <td>(評価) (根拠) 新しい保護者連絡システム「すぐーる」を無事に導入することができた。今後はPTA関係の連絡を、原則としてすべてこの「すぐーる」で行い、保護者に確実に情報が届くようにしたい。PTA総会や森山登山における補助活動は、もっと参加しやすいように改善の余地がある。</td> </tr> </table>		<b>B</b>	(評価) (根拠) 新しい保護者連絡システム「すぐーる」を無事に導入することができた。今後はPTA関係の連絡を、原則としてすべてこの「すぐーる」で行い、保護者に確実に情報が届くようにしたい。PTA総会や森山登山における補助活動は、もっと参加しやすいように改善の余地がある。
<b>B</b>	(評価) (根拠) 新しい保護者連絡システム「すぐーる」を無事に導入することができた。今後はPTA関係の連絡を、原則としてすべてこの「すぐーる」で行い、保護者に確実に情報が届くようにしたい。PTA総会や森山登山における補助活動は、もっと参加しやすいように改善の余地がある。			
⑫学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;"><b>A</b></td> <td>(評価) (意見) ・「五高フォトニュース」や「五城目広報」への寄稿は、五城目高校のよいPRになっており、大変素晴らしい取組である。 ・行事等の見直しや、新しい保護者連絡システムの導入は着実な成果である。 ・PTA活動では保護者をどのように巻き込むかが課題である</td> </tr> </table>	<b>A</b>	(評価) (意見) ・「五高フォトニュース」や「五城目広報」への寄稿は、五城目高校のよいPRになっており、大変素晴らしい取組である。 ・行事等の見直しや、新しい保護者連絡システムの導入は着実な成果である。 ・PTA活動では保護者をどのように巻き込むかが課題である	教頭記入
<b>A</b>	(評価) (意見) ・「五高フォトニュース」や「五城目広報」への寄稿は、五城目高校のよいPRになっており、大変素晴らしい取組である。 ・行事等の見直しや、新しい保護者連絡システムの導入は着実な成果である。 ・PTA活動では保護者をどのように巻き込むかが課題である			
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	「すぐーる」の導入や五城目町広報への寄稿に伴って、この分掌の業務量は増加しているため、他の業務を減らすか担当者の負担軽減を図るなどして、業務全体を適正に運営していくことができるように工夫していく必要がある。	主任記入		

評価基準A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	基礎学力の定着と向上を図る。 思考力を育む授業改善を図る。	前年度3月作成				
③現状	入学者の多くは学習に対する強い苦手意識を持っており、中学校段階の基礎・基本の学習内容が定着しておらず、高校での学習へとスムーズに移行できていない。五高ベーシック、コース制、朝学習、協働的な学習等の取り組みを通じて、引き続き一人一人の学習意欲向上を図りながら、主体的な学習姿勢を育む必要がある。また、基礎学力定着だけでなく学力伸長のためには思考力も育む必要がある。					
④具体的な目標	1 自立に向かうための基礎・基本の指導を徹底し、分かる喜びを体験させながら、自発的な学習態度を育成する。 2 問いや課題に根気強く立ち向かい、他者と協力しながらよりよく解決しようとする姿勢を育む。 3 学習習慣を身に付けさせ、自ら学び続ける生徒を育てる。					
⑤目標達成のための方策	1 五高ベーシックや習熟度少人数学習、コース制の効率的な在り方を検討し、学力各層に配慮した分かる授業を実践し、生徒の自己肯定感を高める。 2 協働的な学習を積極的に取り入れ、思考の過程を自らの言葉で説明させ、その見方や考え方を共有しながら、それぞれの考えを広げ深められるように工夫する。 3 地域の教育力を積極的に活用できる方法を模索、実践し、生徒の学びの幅を広げる。 4 授業に向かう姿勢・環境づくり(授業内での生徒指導充実)を図る。					
⑥具体的な取り組み状況	1 シラバス・年間指導計画及び評価計画表を元に各教科担当が授業を進める他、観点別評価については教科内で検討しながら行われている。 2 今年度の授業研修テーマ「生徒の思考を深める授業づくり」を踏まえた第1回オープン授業デーを実施し、実施後の意見・感想を整理するなど授業改善への取り組みを進めている。 3 夏季休業中の授業研修会が実施できず、10月上旬にICT活用を含めて実施できるよう準備している。 4 各学年で朝学習・読書を実施している他、長期休業課題や補習を進めており学力向上や学習習慣の確立に取り組んでいる。	8月までの達成状況や評価				
⑦達成状況	1 1学期末に授業アンケートが実施できず、達成状況の判断ができなかったが、授業の振り返りや授業内評価から基礎力向上と思考力を育む内容を判断・考察し、改善に向けて取り組んでいきたい。 2 朝学習・読書・長期休業課題・補習は各学年で計画的に実施され、学習習慣の定着はできている。					
⑧自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td>(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>1 授業アンケートが実施できず、計画通り進めることができなかった。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。</td> </tr> </table>		(評価)	(根拠)	B	1 授業アンケートが実施できず、計画通り進めることができなかった。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。
(評価)	(根拠)					
B	1 授業アンケートが実施できず、計画通り進めることができなかった。 2 学習習慣の定着はできたが、生徒一人一人の思考力向上に課題があるため。					
自己評価に基づいた改善策	1 今後も振り返りや授業内評価を改善・工夫し、授業改善を特に進めていく。 2 災害などの影響を受けても、その都度教科内で話し合い、授業進度や授業内容を検討し対応していく。 3 第2回オープン授業デーでは、「思考力を深める授業」を考慮して取り組む。					
⑨具体的な取り組み状況	1 教科内の協議(共通理解)などで、年間指導計画・評価計画表の反省・課題を修正しながら授業改善を進めている。 2 第2回オープン授業デーにおいて、各教科に目標・テーマを設定して取り組んでもらい、参観した教員の感想・意見などをまとめ、全職員で共有した。 3 冬季休業中にICTを活用して、生徒が自ら考えて進めるグループ学習やペア学習などの共有・共同学習させる方法を研修した。 4 各学年で長期休業中の課題出題(家庭でクロームブックを活用して取り組む課題など)の工夫が行われた。	年度末までの達成状況や評価				
⑩達成状況	1 教科内の取組が活発に行われ、授業改善に生かされている。 2 第2回授業アンケートでは、一部を除いてほぼ全教科で学習評価向上の傾向にあった。 3 全教員が参加して、長期休業中に研修や様々な情報交換が行えた。 4 各学年で基礎学力向上の取組(朝学習・読書・ICT活用課題等)が行われていた。					
⑪自己評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td>(根拠)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>1 授業アンケートの一部で低下した項目「学ぶ楽しみ」があり今後改善に取り組まなければならないため。 2 今年度の基礎学力向上・思考力を育む取組を考察し、更に改善していく必要があるため。</td> </tr> </table>		(評価)	(根拠)	B	1 授業アンケートの一部で低下した項目「学ぶ楽しみ」があり今後改善に取り組まなければならないため。 2 今年度の基礎学力向上・思考力を育む取組を考察し、更に改善していく必要があるため。
(評価)	(根拠)					
B	1 授業アンケートの一部で低下した項目「学ぶ楽しみ」があり今後改善に取り組まなければならないため。 2 今年度の基礎学力向上・思考力を育む取組を考察し、更に改善していく必要があるため。					
⑫学校関係者評価と意見	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">(評価)</td> <td>(意見)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>1 基礎学力の定着と向上、思考力の育成を目指した取組が具体的に実施されている。 2 地域の大人との出会いによる知的好奇心の刺激など、「学ぶ意欲」の醸成を含めた取組の強化に期待する。</td> </tr> </table>	(評価)	(意見)	B	1 基礎学力の定着と向上、思考力の育成を目指した取組が具体的に実施されている。 2 地域の大人との出会いによる知的好奇心の刺激など、「学ぶ意欲」の醸成を含めた取組の強化に期待する。	
(評価)	(意見)					
B	1 基礎学力の定着と向上、思考力の育成を目指した取組が具体的に実施されている。 2 地域の大人との出会いによる知的好奇心の刺激など、「学ぶ意欲」の醸成を含めた取組の強化に期待する。					
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 各教科ごとに「身につけさせたい学力」の確認と具体的な取り組みについての再検討を促したい。 2 地域学習や交流・連携を深めた教育課程の検討を進めていきたい。 3 今後も校内研修、校外研修の積極的な企画、参加を促し、授業改善を進めていきたい。	教頭記入 主任記入				

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	生徒の健全な成長を喚起する。		前年度3月作成
③現 状	1 問題行動の件数は比較的落ち着いた状態で推移しており、前年度よりも指導件数が減少した。 2 SNSが関係する問題やSNSで問題が発覚するものが多い。 3 クラスや部活動内での人間関係に係るトラブルが多い。		
④具体的な目標	1 自己有用感や達成感、道徳心を涵養するための積極的な働きかけを行う。 2 生徒の言動等の情報把握に努め、問題行動の未然防止につなげる。 3 問題行動やいじめに対しては、迅速に組織的な対応を図る。 4 立ち止まっの挨拶を励行するなど、基本的なマナーと正しい整容を身に付けさせる。		
⑤目標達成のための方策	1 クラス担任や副担任、学年主任や生徒指導部で適宜(HR、集会や行事など)生徒指導につながるような働きかけを行う。また、外部団体(警察など)の力を積極的に活用していく。 2 普段の生活における言動、担任による面談、学校生活アンケートの実施などで情報把握に努め、必要な情報を共有する。特に、大型連休や長期休み明けの様子や変化を注意深く見ていく。また、適宜必要な声かけを全職員が行う。 3 報告・連絡・相談を密に行う。相談しやすい雰囲気づくりに努め、教員同士のコミュニケーションを円滑に行う。 4 挨拶をはじめとする立ち振る舞いの重要性や必要性を理解させ、指導する。		
⑥具体的な取り組み状況	1 担任や副担任、学年主任や生徒指導部で各種場面を活用し、生徒指導に関する働きかけを行っている。また、五城目警察署のご協力により、交通安全、薬物乱用防止について考える機会を得ることができた。 2 担任は普段の言動の観察の他、4月、夏季休業明けに面談を行った。また、7月に第1回の学校生活アンケートを実施し、情報把握と情報を共有を行った。 3 教員同士のコミュニケーションを円滑に行っている。 4 全職員がしっかりと挨拶をすることや、各場面でのマナーについての指導を適宜行っている。		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	1 HR、行事や集会などで自己有用感や達成感、道徳心を涵養するための働きかけを適宜行うことはできている。 2 生徒の言動等の変化や情報把握に努め、問題行動の未然防止や早期発見、早期解決に繋げることができている。 3 いじめ事案については、迅速に組織的な対応を図ることができている。(問題行動は発生していない。) 4 立ち止まっの挨拶については、概ね実践できている。基本的なマナーと正しい整容を身に付けさせ指導をしているが、注意や指導を加えないと整容面を正ことができない生徒も見受けられる。		
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 1 行事(登山、学校祭、全校応援)などを通じて、多くの生徒が自己有用感や達成感を得ている姿が見えた。 2 必要な情報共有、報告や相談は概ねできている。問題の未然防止に努めているが、いくつか問題が起きている。 3 各事案(いじめ関係)に対して組織的に対応できており、早期の解決に繋がっていると思われる。 4 全職員が整容や挨拶を始めとする立ち振る舞いなどの意識向上の必要性を感じ、場面を捉え適宜行っている。	
自己評価に基づいた改善策	引き続き、いじめや問題行動の未然防止、早期発見、早期解決に取り組む。学校生活アンケート(9月、2月)の実施などで状況把握に努め、必要な情報を共有する。		
⑨具体的な取り組み状況	1 各学年、学年部会を適宜開催するなど情報共有を継続的かつ密に行い、各案件に対応している。 2 全職員で情報共有し、集計結果や気になる記載についてすぐに対応した。 3 8月下旬から9月初旬に、担任や副担任、学年主任による面談を実施し、長期休業(夏季休業)明けの生徒の状況把握(変化など)に努めた。特に、7月の豪雨被害にあった生徒もいたため、丁寧に対応した。2回目の学校生活アンケートは1回目との間隔を考慮し、12月に実施した。 4 ホームルーム活動、登校時指導、各集会時などで挨拶を含む基本的な生活習慣の確立につながる指導をしている。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 問題行動、いじめやいじめに繋がる可能性のある事柄について、組織的に素早い対応ができている。 2 各学年、主任を中心に情報共有、必要な報告や相談ができている。また、管理職への報告や相談もできている。 3 整容面の指導に関しては、指導に苦慮する生徒も数名見られるが、粘り強く対応、指導できている。 4 道徳心の涵養につながるような指導を担任や副担任、学年主任や生徒指導部が適宜行っており、未然防止に努めている。残念ながら問題行動が1件発生してしましたが、学年部を中心に生徒の状況も考えながら事後の指導にあたった。		
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 「自己有用感」「道徳心」の涵養など目に見えない指導を大切にすることが問題行動やいじめなどの防止、充実した学校生活や進路指導につながると考え、教職員は真摯に生徒と向き合いながら、丁寧に指導にあたっている。しかし、大変残念ながら問題行動が1件、問題に繋がりがかねないトラブルなども数件あった。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>B</b>	(意見) ・職員がワンチームで一丸となって生徒に目を配っている。 ・問題行動やトラブルに対して組織的に粘り強く対応している。 ・生徒指導は、問題行動の予防や対策だけではなく、すべての教育活動に機能していることが必要である。「自己有用感」や「道徳心」などの目に見えない能力の指導はとても重要である。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 引き続き、教職員で生徒の状況把握に努め、必要な情報を共有し、問題行動の未然防止に取り組んでいきたい。 2 トラブルや事故が起きてしまった場合は、初期対応、チームでの対応、報告、相談、連絡など必要なことを積み重ねて、「大事」にならないようにしていく。 3 「自己有用感」「道徳心の涵養」など目に見えないが大切なものを育てるために教育活動全体で行っていきたい。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

<p>②重点目標</p>	<p>1 3年間の系統的な進路指導を推進し、早い段階からの進路意識の高揚を図る。 2 きめ細やかな進路指導を行うことにより、3年生全員の進路達成を目指す。 3 国公立大学や看護系への進学者を増やす。</p>		<p>前年度3月作成</p>
<p>③現 状</p>	<p>3年生全員の進路志望達成についてはほぼ達成できたが、国公立大学や看護系への進学者がまだ少ない。国公立大学や看護系の志望者に関しては、1、2年次の早い段階から個別で指導していく必要がある。3年間を見通した進路指導に関しては、更なる学年部との連携が必要である。</p>		
<p>④具体的な目標</p>	<p>1 学年部との連携を密にし、3年間を見通した進路指導計画を実施する。 2 進路検討会や指導担当者の割り当てなどを円滑に運営する。 3 国公立大学や看護系の志望者への指導を強化する。</p>		
<p>⑤目標達成のための方策</p>	<p>1 3年間を見通した進路指導計画の立案、運営を実施する。 2 職場定着就職支援員や進路担当との面談を通して生徒の進路希望の把握に努め指導に生かす。 3 国公立大学や看護系の志望者において、学年部と連携して指導計画を立てる。</p>		
<p>⑥具体的な取り組み状況</p>	<p>1 全校生徒対象としてキャリアアップ集会(5月)を、各学年毎に県や外部団体と協力して模擬面接練習、インターンシップマナー講習、ふるさと企業紹介などを実施する予定で、それぞれ担当者が連絡を取りながら企画している。 2 二者・三者面談を通して進路に関する意思を明確にした。また全職員に3年生の面接をお願いした。</p>		<p>8月までの達成状況や評価</p>
<p>⑦達成状況</p>	<p>今まで秋に実施していたキャリアガイダンスを5月に実施することで1・2年生には進路意識の向上を、3年生では働く意義を考えさせることができた。夏季休業中に外部講師を招いて面接指導やインターンシップ前マナー講習を企画していたが、7月豪雨により中止となった。</p>		
<p>⑧自己評価</p>	<p>(評価) B</p>	<p>(根拠) 自然災害により中止となった進路行事もあったが概ね目標は達成されている。高大連携授業や夏季休業中に行われたオープンキャンパスやインターンシップに1・2年生からも参加するなど、生徒の進路意識が高まっている。</p>	
<p>自己評価に基づいた改善策</p>	<p>1 学年の枠を越え、生徒の進路目標を達成できるよう連携をとる。 2 進路に関する情報を早めに生徒・職員へ提供する。</p>		
<p>⑨具体的な取り組み状況</p>	<p>1 進路内定のために学年の枠をこえ生徒の面接・小論文指導にあたった。また担当以外の先生にも面接指導を願い出る生徒に対しても、多忙にもかかわらず指導を行った。 2 各学年部の企画による進路ガイダンスを11月、12月に実施した。また県建設部・健康福祉部と協力して県内企業を招いたキャリアガイダンスを実施することができた。</p>		<p>年度末までの達成状況や評価</p>
<p>⑩達成状況</p>	<p>1 進路指導部や学年部が中心となった進路行事を通じて進路目標を達成することができ、3年生はほぼ進路が決定した。 2 行事や学年主催の各学年部企画による進路ガイダンスやキャリアガイダンスを10～12月に実施することで進路を意識させることができた。</p>		
<p>⑪自己評価</p>	<p>(評価) B</p>	<p>(根拠) 3年生の進路に関しては、全職員の協力により概ね達成することができた。当初、学校の指導に納得できない保護者もいたが、丁寧に説明をすることで理解していただき、状況が改善された。体調を崩し休みがちな生徒が多く、担任の負担軽減が課題である。</p>	
<p>⑫学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価) A</p>	<p>(意見) ・進路ガイダンスやキャリアガイダンスなどの実施により進路に対する意識を早くから高めている。 ・地域への就職割合が大きい。地域にもっとも貢献している学校であるといえる。 ・保護者に対して、より丁寧な説明と一層の情報提供が必要である。</p>	
<p>⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>・学校と保護者の意見が一致していなければ生徒の進路目標達成は厳しいので、三者面談などを通じて保護者に学校側の考えを理解してもらう。また、進路通信などの発行回数を増やすことをめざしたい。</p>		<p>主任記入</p>

評価 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	特別活動行事への参加を通して、個性の伸長を図り、本校および地域社会の一員としてよりよい在り方生き方を求めて活動する実践的な態度を養う。		前年度3月作成
③現 状	生徒数減少により、学校祭の一部やクラス対抗など、枠組みの変更を要する点がいくつかある。また、予算規模縮小について職員・生徒・保護者に対して理解を求めながら対応する必要がある。		
④具体的な目標	1 学校行事については、感染状況に応じて感染対策を維持しながら、誰もが楽しめる盛り上がりのあるものにし、生徒の連帯感や愛校心を高める。 2 部活動加入については、新入生は100%を目指して加入を勧める。		
⑤目標達成のための方策	1 HR活動等を通じて各行事の意義やひとりひとりの存在意義や責任などについてよく理解させる。 2 現在、部活動に所属していない2、3年生に対しても年間を通じて加入を勧める。		
⑥具体的な取り組み状況	1 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後も、感染に注意しながら学校行事は実施できている。 2 全校登山はPTA、地域の協力を得て実施した。 3 学校祭は4年ぶりに一般公開を行い実施した。		
⑦達成状況	1 新入生の部活動加入率は57.7%と昨年度を大きく下回った。 2 職員だけでなく、保護者や地域の方々との連携もよく、行事の成功につながっている。 3 学校祭では模擬店を実施するなど、地域、保護者等に生徒の活躍を見ていただいた。		8月までの達成状況や評価
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 様々な行事で生徒が活躍する場面が増え、満足度も高まったと思うが、同規模での実施は負担が大きくなってきている。	
自己評価に基づいた改善策	すべての行事を以前の形に戻すのではなく、本当に必要なものを回復させるとともに、中止や縮小したことよ良かったと判断できるものは取り入れて、進化していくことが重要である。		
⑨具体的な取り組み状況	1 クラス対抗を実施した。 2 生徒会会則の改正を行った。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 クラス対抗はグラウンドが使用できず屋外種目(リレー)が実施できなかったが、合同チームの編成やリーグ戦を実施するなど、熱戦が繰り広げられた。 2 生徒会役員数の改正と生徒会常任委員会の再編を行った。 3 ソフトテニス部、陸上競技部が廃部となった。		
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 生徒数減少による、学校行事の縮小や組織の改編が今後も必要になる。残念ながら2つの部が廃部となるが「やりたい部活がない」と加入率も低下するため兼部や合同チームの可能性を模索していきたい。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>A</b>	・部活動の問題は生徒数の減少に伴って今後さらに大きくなると思われる。充実した高校生活のために、部活動は大事にしたいが、改革が必要である。 ・生徒の学校行事への満足度は高く、よく工夫されている。 ・改革では生徒たちはどうしたいのかということにも焦点をあてる必要がある。	教頭記入
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 今後の部活動運営のモデルとして、野球部員が冬期オフを利用してバスケットボール部の練習に参加し大会にも出場したが、両部にとって貴重な経験になった。来夏の甲子園予選ではバスケットボール部員が野球部に合流予定である。 2 一部学校行事の縮小や変更は避けられないが生徒の意見を積極的に取り入れた形で計画したいと考えている。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 自ら積極的に心身の健康の保持増進に努めようとする生徒を育成する。 2 生徒に寄り添い、心の成長を支える教育相談体制の整備・充実を図る。 3 特別支援教育体制の整備・充実を図る。		前年度3月作成
③現状	1 検診の結果を生かした生活や健康管理ができていない生徒がいる。 2 学校生活上の困難をかかえ、問題の解決や適応がうまくできない生徒の割合が増加し、多様化している。 3 特別な支援を要する生徒やその境界にある生徒に対する合理的配慮や卒業後を見据えた指導が必要である。		
④具体的な目標	1 検診後の受診や治療をよりすすめるとともに、望ましい生活習慣の実践等主体的に健康管理に努めようとする意識を高める指導を行う。 2 生徒がかかえる心身の諸問題を的確に把握し、職員が連携・協力して組織的な指導を行う。 3 学習上、生活上の困難をかかえ、さまざまな配慮や支援を必要とする生徒に対し、職員が連携して一人一人の実態に合った支援を行う。		
⑤目標達成のための方策	1 健康診断や毎日の健康観察により生徒の心身の状態をしっかり把握し、健康に関する情報を職員間で共有するとともに、ほけんだよりの発行等により健康管理に対する意欲を喚起する。 2 年間複数回の個人面談週間を設定する等教育相談を充実するほか、スクールカウンセラー等外部の専門家による教育相談を効果的に活用する。 3 入学時における中学校との情報交換を充実するとともに、特別な支援に関する専門的知見を備えた外部機関とも連携し、進路を見据えた支援を行う。		
⑥具体的な取り組み状況	1 生徒の健康情報等を踏まえ、健康・安全面の保持増進に関する情報提供を適宜行った。 2 中高連絡会や個人面談、保健室からの情報提供等を生かした組織的な支援が各学年部を中心に行われた。 3 生徒の観察や支援のあり方について、特別支援チームに指導・助言をいただき、研修した。		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	1 特に熱中症に対して、管理職による注意喚起、教職員の連携、保健だより等によって、生徒の予防意識が高まった。(6、7月の熱中症疑い R4:22人 ⇒ R5:7人) 2 教職員間において、生徒の情報共有や連携・協力に取り組み、保健室来室状況では、来室理由のその他(悩み・話し相手)が2倍に増加した。 3 特別教育支援チームによって、特別支援教育的な教職員の共通理解を深めることができた。4月27日授業参観とケース会議、7月14日授業参観と職員研修会を実施した。		
⑧自己評価	B	(根拠) 健康診断や検診、保健だより等を通じて、生徒の健康保持増進についての意識を高めた。特別支援教育的な視点では、就職支援のあり方について、研修を深めた。	
自己評価に基づいた改善策	保健室利用状況では、内科的理由が前年度比約15%減少したが、悩み・話し相手が2倍に増加したので、人間関係形成力等について、啓発する情報を生徒に提供する。		
⑨具体的な取り組み状況	1 健康診断や健康観察、ほけんだより等を通じて生徒の自己管理意識を高めることができた。生徒の健康情報について、職員会議等を通じて、適宜情報共有するとともに全校で熱中症・感染症対策をとることができた。 2 教職員間の連携・協力が概ね機能できており、高等学校特別支援チームと連携して、生徒の状況把握と個別対応が円滑に行うことができた。 3 高等学校特別支援チームに依頼して特別支援教育的な支援に対する職員研修を7月14日に実施し、全職員が受講した。進路について、配慮の必要な生徒への授業参観及びケース会議を実施した。		年度末までの達成状況や評価
⑩達成状況	1 健康管理に対する生徒の意識は高まってきたが、一部の生徒に人間関係の悩みがあり、その対応が課題である。全校で不登校状態の生徒が2名いるので、継続的に支援していきたい。 2 スクールカウンセラーと養護教諭の連携が円滑で、生徒に寄り添い、よく機能している。そのため、教職員が細やかに対応することが可能である。 3 配慮を要する生徒への進路に関する支援のあり方について、問題意識をもった職員がおり、2年部ではケース会議を1月26日に実施した。		
⑪自己評価	(評価) B	(根拠) 健康診断や健康観察、ほけんだより等を通じた健康管理意識の向上や、校内及び外部連携による特別支援的な配慮を要する生徒への支援のあり方について共通理解をもつことができた。一方、個々の日常や家庭への対応については、学年部中心にならざるを得ない面がある。	
⑫学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ・健康管理に関する情報発信を適切に行っている。 ・生徒が「悩み」を相談しやすい環境を整えている。 ・多様な生徒が入学する中で、今後は中学校との連携を一層密にする必要がある。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 健康管理に対する意識の向上を図る情報発信と、来室理由が多い怪我の予防に努める。 2 面談の質を高める職員研修を実施し、生徒や保護者が話しやすい環境づくりを図る。 3 多様な特性を有する生徒に対して、中学校との連携を一層密にして支援する。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

①評価領域	図書・ICT部
-------	---------

②重点目標	1 視聴覚機器・ICT機器の適切な管理と活用の推進をする。 2 図書館の利用促進と環境整備を行う。		前年度3月作成
③現 状	1 校内では電子黒板・タブレットを活用した学習活動ができているが、家庭でのリモート学習のための wifi環境が整っていない。 2 通学バス時間等の関係で放課後の図書館の新聞や本を利用してもらい機会が少ない。		
④具体的な目標	1 視聴覚機器・ICT機器の積極的な活用、適切な管理及び利用しやすい環境整備を進める。 2 図書の貸出利用時間を再検討し、授業以外の活用を促す。		
⑤目標達成のための方策	1 生徒用chromebook利用規程を周知し、タブレット使用に関する保険加入を実施し、どこでも安心して学習できる環境を作る。 2 ICT機器活用の研修を実施する。 3 進路活動を意識した読書および新聞の活用を推進する。 4 利用しやすい図書館環境整備のため、計画的に図書の購入と廃棄を行う。		
⑥具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の負担を減らすために、タブレットの保険加入を行わないこととした。</li> <li>・7月の雨災害のためICT機器活用研修を8月から10月に延期した。GoogleのJamBoard研修予定。</li> <li>・寄贈図書を選定し、納入されつつある。学校予算での図書購入を行う予定である。</li> </ul>		8月までの達成状況や評価
⑦達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業におけるchromebookの活用が増えてきている。</li> <li>・授業時や放課後の図書室利用は多いが、図書の貸出数が少ない。</li> </ul>		
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>・Chrombookの活用は増えているが、ICT機器活用研修をまだ実施していない。</li> <li>・図書室の利用は多いが、本や新聞を読む活動の推進が不十分である。</li> </ul>	
自己評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器活用研修を実施する。</li> <li>・寄贈図書の周知と読書活動の推進に取り組む。</li> </ul>		年度末までの達成状況や評価
⑨具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員から希望する研修内容をあげてもらい、ICT担当者がオンライン研修を2回受講した後Chromebookの校内研修を実施した。</li> <li>・生徒および教職員から希望をとり、寄贈と学校予算で新規図書購入を行った。</li> </ul>		
⑩達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業におけるChromebookの活用推進のために、共同学習におけるアプリケーション(スプレッドシート、スペース、ジャムボード)活用の教職員研修を実施した。</li> <li>・生徒および教職員から希望をとり、寄贈図書と学校購入図書の合わせて177冊の図書を購入し、国語科は図書紹介のポップ作りに取り組んだ。</li> </ul>		
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員から研修内容の希望をとり、ICT活用研修を実施した。</li> <li>生徒と教職員から希望をより177冊の図書を購入し、読書推進のため国語科から図書紹介のポップ作りを行ってもらった。</li> </ul>	教頭記入
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>A</b>	(意見) <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や教職員の声を取り入れながら、ニーズに即した研修を実施している。</li> <li>・授業におけるICT機器の利用は着実に進んでいる。</li> <li>・生徒が学校でじっくりと本を読む時間が確保できれば更によいと思う。</li> </ul>	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用した授業を推進するために、Chromebookを活用した授業実践の収集と提供を行うとともに、教員研修の企画と実施に取り組む。</li> <li>・生徒の知識を広げ深めることと読解力を育成することを目標として、生徒の図書室利用を増やしながら読書活動の推進に努める。</li> </ul>		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 基本的な生活習慣・学習習慣を確立する。 2 コミュニケーション能力の育成をする。 3 早期の進路目標が設定できるようにする。		前年度3月作成
③現 状	学力に不安を抱える生徒が多く存在する。全体指導では、指導が行き届かない生徒が多い。そのため、担任・共通担任を中心に学年全体での指導を考える必要がある。		
④具体的な目標	1 年度内皆勤の生徒数60%、部活動加入率90%にする。 2 担任・学年主任による年3回の個人面談の実施により生徒の実態を把握する。 3 早期の進路目標の設定のために、総合的な探究の時間・LHRを活用する。		
⑤目標達成のための方策	1 学習習慣の確立のために朝学習を充実させる。(遅刻防止にもつなげる。) 2 生徒の家庭環境を把握し、進路目標につなげるために面談を年3回実施する。 3 総合的な探究の時間・LHRを活用して、自己実現につなげる。特に総合的な探究の時間の内容を吟味する。		8月までの達成状況や評価
⑥具体的な取り組み状況	1 行事や考査期間以外は予定通り朝学習を実施している。 2 生徒との面談を2回、保護者面談を1回実施した。 3 総合的な探究の時間については、校外学習を実施するなど探究テーマの決定に向けて準備をすすめた。また、外部講師による進路講話を実施した。		
⑦達成状況	1 遅刻はほぼみられないが、朝学習に取り組む姿勢には個人差がある。 2 面談を通して生徒の進路希望や家庭の状況、保護者の意向などの把握につとめている。 3 校外学習等の行事やその準備・振り返りの際、役割を与えたり発表の場を設けたりして、生徒が自分の責任を果たす経験を持つよう促している。		
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 1・2については計画通り実施できているが、内容はまだ改善が必要である。総合的な学習の時間やLHRにおける進路活動は2学期から本格化するため、現時点ではまだ準備段階と言える。	
自己評価に基づいた改善策	1 現在の朝学習を継続しながら、学習意欲の維持が困難な生徒は個別にフォローを行う。 2 予定している面談期間以外にも、必要に応じて担任や学年主任による面談をそのつど実施する。 3 フィールドワークや企業見学を通して活動を充実させる。		年度末までの達成状況や評価
⑨具体的な取り組み状況	1 成績が伸び悩んでいる生徒を対象に、定期考査前に学習会を実施した。 2 必要に応じて随時面談を実施し、家庭と連絡をとった。 3 「トップが語る秋田の企業」での職場見学や経営者講話、職業ガイダンスなどを通して、仕事に臨む姿勢や必要な資格について学び、得た情報をワークシートに整理した。		
⑩達成状況	1 定期考査での欠点はほぼ解消された。一方で年度内皆勤予定の生徒は2割にとどまった。 2 面談を重ねて生徒及び家庭の状況の把握が進んだ。 3 各生徒とも就職・進学方向性がほぼ固まった。進路に関する知識には個人差があるが、学年全体としての進路意識は高まっている。		
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 1 欠点は解消できたが学習習慣の確立に到らない生徒が多い。遅刻は少ないが皆勤が目標以下。 2 生徒の状況について学年内での情報共有は進んだが、生徒の発信力を伸ばすことができずにいる。 3 進路意識は高まってきており、今後は各自の方向性に基づいた具体的な情報収集が必要である。	教頭記入
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>B</b>	(意見) ・定期考査前の学習会や職場見学、経営者講話等、生徒一人一人が自分の目標に向かって進むための支援が工夫されている。 ・家庭での学習習慣の一層の定着に課題がある。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	1 部活動加入者が少ない現状を踏まえ、家庭学習の習慣づけに重点を置いた指導を行う。 2 面談を通して生徒が自己理解を深められるよう工夫する。探究活動や学校行事を活用して生徒間での意見交換の場を増やし、発信力を育てる。 3 インターンシップの準備を中心に職業に対する関心を高め、キャリアガイダンス等に際して積極的な情報収集の時間をつくり、早期の目標具体化をはかる。		主任記入

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。



<p>②重点目標</p>	<p>1 中堅学年としての自覚を持ち、責任と節度ある行動や生活を心がける。 2 学習習慣を身につけ、学力向上を図る。 3 職業観を養い、具体的な進路目標を設定する。</p>		<p>前年度3月作成</p>
<p>③現 状</p>	<p>1 学校生活に関しては、多くの生徒が基本的な生活習慣、挨拶、時間厳守を身につけているが、年度当初や長期休業明けに生活のリズムを崩す生徒が散見される。 2 勉学に関しては、学習習慣の確立、基礎学力の定着ができていない生徒が多く見られる。 3 具体的な進路先について検討中の生徒が多数である。</p>		
<p>④具体的な目標</p>	<p>1 基本的な生活習慣、挨拶、時間厳守を身につけさせる。 2 学習習慣を確立させ、基礎学力を身につけさせる。 3 自己の進路目標を明確させる。</p>		
<p>⑤目標達成のための方策</p>	<p>1 朝の校門指導や学年集会、クラスでの指導をきめ細やかに行う。 2 進路指導、学年集会、HRでの連絡、担任による面談の機会を有効に活用する。 3 コースの特性に応じた資格取得を意識させ、個別の成績指導を行うことで、個々の学力や職業への適性についてを考えさせる。</p>		
<p>⑥具体的な取り組み状況</p>	<p>1 上記の方策について計画通りに実践できている。 2 上記の方策について計画通りに実践できている。 3 「資格取得を意識させ、個別の成績指導を行う」の部分に改善の余地がある。</p>		
<p>⑦達成状況</p>	<p>1 目標のための方策は実践できているが、基本的な生活習慣が確立しているかは不明である。 2 目標のための方策は実践できているが、基礎学力が身につけているかは不明である。 3 目標のための方策は概ね実践できているが、進路目標が明確になっているかは不明である。</p>		<p>8月までの達成状況や評価</p>
<p>⑧自己評価</p>	<p>B</p>	<p>(根拠) 目標達成のための方策は計画通りに実践できているが、目標が達成されているわけではないので、Bとした。</p>	
<p>自己評価に基づいた改善策</p>	<p>個人面談、進路希望調査、基礎学力テストの結果等をもとに成果を検証し、年度末の目標達成につなげたい。</p>		
<p>⑨具体的な取り組み状況</p>	<p>1 朝の校門指導や学年集会、クラスでの指導をきめ細やかに行うことができた。 2 進路指導、学年集会、HRでの連絡、担任による面談の機会を有効に活用することができた。 3 コースの特性に応じた資格取得を意識させ、個別の成績指導を行うことで、個々の学力や職業への適性についてを考えさせることができた。</p>		
<p>⑩達成状況</p>	<p>1 目標のための方策が実践できており、生徒の基本的な生活習慣、挨拶、時間厳守に改善がみられた。 2 目標のための方策は実践できているが、基礎学力が身につけているかは不明である。 3 目標のための方策は概ね実践できており、進路目標が明確になった生徒の割合が増えた。</p>		<p>年度末までの達成状況や評価</p>
<p>⑪自己評価</p>	<p>(評価) B</p>	<p>(根拠) 目標達成のための方策は計画通りに実践できた。生徒の大半が職員の指示に従い、成長を遂げたが、40名全員が目標を達成したわけではないので「B」とした。</p>	
<p>⑫学校関係者評価と意見</p>	<p>(評価) B</p>	<p>(意見) ・基本的な生活習慣の確立や進路目標の明確化等、きめ細かな指導をしている。 ・コースの特性に応じた資格取得を一層奨励してほしい。 ・家庭学習を更に習慣化する必要がある。</p>	<p>教頭記入</p>
<p>⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策</p>	<p>・基本的な生活習慣の確立や進路目標の明確化等、きめ細かな指導をこれまで通り、継続する。 ・生徒の卒業後の進路を十分に考慮し、コースの特性に応じた資格取得を奨励する。 ・家庭学習の習慣化について、その目的および手段について検討した後、実施する。</p>		<p>主任記入</p>

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

②重点目標	1 生徒の進路目標達成を推進する。 2 社会人として必要な力の育成を図る。		前年度3月作成
③現 状	1 進路行事や三者面談などを通じて、進路目標が定まりつつある生徒が増えている。 2 新型コロナウイルス蔓延を受け、インターンシップのような校外学習の機会が少なかった。また、18歳で成年になるが、十分な準備ができていない生徒ばかりではない。		
④具体的な目標	1 進路目標実現を目指し、主体的に取り組む力を身に付けさせる。 2 社会人としての教養を深めさせる。また、社会で通用するような基本的な生活習慣の確立を促す。		
⑤目標達成のための方策	1 進学希望者に対する補習や添削指導、就職希望者に対する一般教養の習得や面接対策を行う。 2 言葉遣いや挨拶、整容、規則の遵守を指導する。脱コロナを見据え、健康管理の重要性を改めて理解させる。		
⑥具体的な取り組み状況	1 年度初めから担任や就職支援員との面談を行い、方向性の確認を行った。また、取り組むべき事を明確にし、進路実現に向けて面接練習や作文・小論文指導、補習や添削など個別の対策をとった。 2 進路指導部や学年部で企画する進路活動を通して、社会に出る準備を促している。卒業生や外部の方々から指導をいただく場面もあり、成人として卒業していく自覚が芽生えてきている。		
⑦達成状況	1 多くの生徒は学年部の指示に従い精力的に進路活動に臨んでいるが、保護者他いろいろな方々の意見を考慮しながら、進路を変更する生徒もいる。臨機応変な対応が必要な場面もある。 2 概ね計画通り実施できており、生徒の言動からも成長がうかがえる。目の前の事から逃げずに取り組む姿は感心である。7月の大雨で、予定していた進路活動ができなかったのは残念である。		8月までの達成状況や評価
⑧自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 担任の指導が行き届いており、進路活動への取り組みもその姿も立派である。しかし、これからが本番であり気を抜くことはできない。	
自己評価に基づいた改善策	今後、本格的に試験が始まるため、自主的な活動を強く促し、何事にも積極的に取り組む力を身に付けさせていきたい。また、学年部としては卒業後までを考えた指導を継続する必要がある。		
⑨具体的な取り組み状況	1 夏季休業中からの取り組みを継続させ、各自の進路目標に向かって準備を進めさせた。担任や指導担当の先生方が中心になり面接練習や試験対策、小論文指導などを行った。 2 学年部・進路指導部の行事や指導の中で、人間的な成長を促した。また、学校行事を通して、最上級生としての役割を自覚する場面もあった。日常生活でも指導の機会を見逃さず、時には反省文指導なども行った。		
⑩達成状況	1 多くの生徒が第一希望先に内定・合格を頂き、後の手続きや書類発送等もしっかり指導した。生徒と保護者の考えが合わず、担任が調整に苦労した場面もあったが、面談等を通して実現可能な進路検討を促した。 2 個人差はあるが多くの生徒が落ち着いて学校生活を送っており、やや大人びた礼儀正しい立ち居振る舞いができるようになってきた。次年度も良いスタートを切るため、最後まで気を抜かず生活するように指導した。		
⑪自己評価	(評価) <b>B</b>	(根拠) 進路目標を達成し、その後も日々の勉強や学校生活に緊張感をもって取り組んでいる生徒が多い。進路指導では急な進路変更への対応や生徒・保護者へのアドバイス等、指導が難しい場面場があるため、臨機応変な対応が必要である。	年度末までの達成状況や評価
⑫学校関係者評価と意見	(評価) <b>A</b>	・社会に出て行くことを見据え、立ち居振る舞いをも含めた人間的成長を促している。先生方の丁寧な指導が素晴らしい。 ・生徒それぞれが自分の目標に向かって頑張っている姿がわかる。 ・生徒や保護者とのきめ細かな面談や指導により進路が100%決定した。	
⑬自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	生徒達は、進路決定後も卒業まで学業に専念しつつ、就職・進学後の準備を欠かさなかった。担任・副担任の細やかな指導があったため、卒業式でも立派に振る舞い、整容等の乱れもなかった。生徒と保護者の意見の相違や急な進路変更は、準備や時間的な面で大きな不利となる。より正確な進路希望を把握するため、生徒だけではなく保護者の意見を聞く機会を多く設定する必要がある。		

評価基準 A: 具体的な活動がなされ、目標が達成できた。  
 B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。  
 C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。